

本資料は 2 月 25 日にスイスで発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。
詳細な情報は下記より英語原文をご覧ください。
<https://bit.ly/2uvPV7f>

アデコ 「GrowTogether」プログラム推進とビジネスミックスで 堅調な粗利を後押し

経済の先行きが引き続き不透明なため、売上高への影響が継続

[2020 年 2 月 25 日 スイス・チューリッヒ]

2019 年第 4 四半期サマリーとハイライト

- 既存事業売上高¹は前年同期比 3%減、営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 4%減
- ビジネスミックスとバリューベースのプライシングにより、粗利率が前年同期比 20bps 増の 19.3%とさらに向上
- 一時的要因を除く²EBITA³ 利益率は前年同期比 10bps 増の 4.9% ; 「GrowTogether」プログラムによる生産性向上とビジネスミックスが売上高減と前年の個々の離散しているベネフィットの合算を上回る
- キャッシュフローは堅調で、売上債権回転日数は前年同期比で 1 日改善し、キャッシュコンバージョンは 93%
- 2020 年 1 月の営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 5%減で、2 月も同様の傾向を示す

2019 年度サマリーとハイライト

- ヨーロッパおよび北アメリカでの経済とスタッフィング市場の成長鈍化により、既存事業売上高は前年同期比 2%減、営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 3%減
- 一時的要因を除く EBITA 利益率は前年同期比 10bps 増の 4.6% ; 「GrowTogether」プログラムが構造的な粗利率向上を後押し
- 当期純利益は前年同期比 59%増の 7 億 2700 万ユーロ
- 2.50 スイスフランの一株当たり配当案に加え、6 億 ユーロの株式買い戻しプログラムを発表
- 「GrowTogether」プログラムは目標を上回る 1 億 4000 万ユーロの生産性向上を実現し、NPS スコアも向上 ; General Assembly とデジタル領域における新たなチャレンジは堅調な成長とアデコグループ内のシナジーを実現

アデコグループ CEO のアラン・ドゥアズは次のようにコメントしています。

「アデコグループは、現在も続く不透明な経済状況と市場の減速にもかかわらず、2019 年を堅調な業績で終えました。収益に影響をおよぼす困難な状況のなか、当社は長期的な投資を妥協せず、収益性の高い成長を実現するための『Perform, Transform, Innovate』戦略の実行に注力しました。『GrowTogether』プログラム、プライシング、そしてビジネスミックスの強化によって収益性が構造的に改善され、第 4 四半期の粗利益は前年同期比で 20 bps 増加し、6 四半期連続で増加しました。

2019 年、『GrowTogether』プログラムは組織にさらに深く浸透し、目標を大きく上回る形で生産性向上へのコミットメントを達成するとともに EBITA 利益率の 10 bps の改善をサポートしました。この収益性の改善は、新しい技術への投資、デジタル製品ポートフォリオの構築、イノベーション戦略に沿った新たなチャレンジの強化を続けているなかで実現しました。General Assembly は力強く成長し、アデコグループの持つブランドと HR ソリューションで構築する独自の 360 度エコシステムにより、顧



客との取引を強化しました。これらの結果は、当社の戦略的優先事項が正しいものであり、それらが確実に実行されていることを示しています。また、フリー・キャッシュフローの改善を実現し、堅調なバランスシートで 2019 年度を終えられた結果、株主への総キャッシュリターンが 10 億ユーロに達する普通配当に加え、6 億ユーロの自社株買いを発表することができました。

2020 年度は現在の戦略的サイクルの最終年となり、粗利率のさらなる向上と収益性を伴った成長の実現に焦点を当てます。『GrowTogether』プログラムを介して、統合されたフロントオフィス向けソリューションや人財をグローバルで探すことのできるアプリを含む実績のあるデジタルツールを展開および拡張し、ビジネスを差別化して運用をより効率的にしています。また、リーンプロセス（PERFORM）をわれわれの働き方に完全に組み込んでまいります。2020 年の 2 億 5,000 万ユーロの『GrowTogether』プログラムによる生産性目標を達成し、360 度の HR ソリューションエコシステムを活用して顧客企業と人財の成功をサポートし、収益性の高い成長を実現することに引き続き取り組んでまいります。

*1：既存事業売上高とは米国会計基準以外の基準で、為替変動、M&A、事業部売却の影響を除く

*2：2019 年の EBITA は、2019 年第 4 四半期の一時的要因 3600 万ユーロと、2019 年度の一時的要因 8100 万ユーロを含む；2018 年の EBITA は、2018 年度第 4 四半期の一時的要因 5900 万ユーロと、2018 年度の一時的要因 9300 万ユーロを含む

*3：EBITA は米国会計基準以外の基準で、償却前営業利益、のれん、および無形固定資産の減損を含む

< 主な数値 >

2019 年第 4 四半期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100 万ユーロ	2019 年 第 4 四半期	2018 年 第 4 四半期	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	5,961	6,127	-3%	-4% ⁴
売上総利益	1,150	1,169	-2%	-3%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	290	294	-1%	-2%
EBITA 利益	254	235	8%	7%
当期純利益	256	(112)	n.m.	
希釈 EPS (ユーロ)	1.57	(0.68)	n.m.	
粗利率	19.3%	19.1%	20bps	20bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	4.9%	4.8%	10bps	10bps
EBITA 利益率	4.3%	3.8%	50bps	50bps

2019 年第 4 四半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100 万ユーロ	2019 年 第 4 四半期	2018 年 第 4 四半期
利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー ⁶ (FCFBIT)	403	307
フリー・キャッシュフロー (FCF)	339	197
純負債 ⁷	398	1,124
未払い日数	52	53
現金流動性 ⁸	93%	84%
EBITDA への純負債 ⁹	0.3x	1.0x



< 主な数値 >

2019 年度通期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100 万ユーロ	2019 年度	2018 年度	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	23,427	23,867	-2%	-3% ⁴
売上総利益	4,504	4,433	2%	-1%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	1,069	1,080	-1%	-1%
EBITA 利益	988	987	0%	0%
当期純利益	727	458	59%	
希釈 EPS (ユーロ)	4.47	2.77	62%	
一株当たり配当案 ⁵ (スイスフラン)	2.50	2.50	0%	
粗利率	19.2%	18.6%	60bps	40bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	4.6%	4.5%	10bps	10bps
EBITA 利益率	4.2%	4.1%	10bps	20bps

2019 年度通期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100 万ユーロ	2019 年度	2018 年度
利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー ⁶ (FCFBIT)	999	903
フリー・キャッシュフロー (FCF)	724	569
純負債 ⁷	398	1,124
未払い日数	53	53
現金流動性 ⁸	93%	84%
EBITDA への純負債 ⁹	0.3x	1.0x

*4：2019 年第 4 四半期の既存事業の売上高の成長は前年同期比 4% 減、または営業日数調整後で 4% 減。2019 年度通期の既存事業の売上高の成長は前年同期比 3% 減、または営業日数調整後でも 3% 減。

*5：取締役会により提案された 2019 年の一株当たり配当

*6：フリー・キャッシュフローは米国会計基準ではない尺度で、営業活動からのキャッシュフローから設備投資を控除したもの

*7：純負債は米国会計基準以外の基準で、短期および長期の借入金から現金、現金同等物、および短期投資を控除したもの

*8：現金換算は米国会計基準以外の基準で、直近四半期の FCFBIT を直近四半期の EBITA で割ったものを四捨五入して計算

*9：EBITDA への純負債は米国会計基準以外の基準で、期末時点での純負債を一時的要因を除いた直近四半期の EBITA で割って減価償却費を加えたもの

2019 年度第 4 四半期の日本の状況

2019 年第 4 四半期の日本での売上高は 6% 増、または営業日数調整後で 8% 増の 3 億 9300 万ユーロで、プロフェッショナル・スタッフィング事業が引き続き成長しました。人財紹介事業の売上高は前年度に大きく成長したため、前年同期比 10% 減となりました。EBITA は 2800 万ユーロ、一時的要因を除く EBITA 利益率は前年同期比 50bps 増の 7.2% でした。ビジネスミックスとプライシングによる好影響が IT への戦略的投資を上回りました。



THE ADECCO GROUP

【本件に関するお問い合わせ先】

アデコ株式会社 広報部

Tel. 050-2000-7024